

## 京都市立芸術大学附属図書館美術教科書コレクションアーカイブ

### 2018年度活動報告

美術教科書コレクションアーカイブ事業では、本学附属図書館が所蔵する明治時代以来の図画工作・美術教科書のうち、昭和戦前までに出版されたもののアーカイブを進めてきた。2017年1月に事前調査に取りかかり、2017年度は854冊（32,227ページ）を対象としてデジタル画像化（スキャニング）を2期に分けて完了した。

2018年度は、これらのデジタルデータ化した画像情報を、必要に応じて検索し活用できるようにするための、データベースの構築に向けた研究を進めた。現在、図書館等で必要となる本を探す時に活用する書籍検索は、その名のとおり書籍自体を検索することを目的としたデータベースで運用されている。一方、本事業では、書名や著作者、発行年などから書籍単位の検索は勿論のこと、対象とする書籍が「美術教科書及び関連書籍」であることから、各ページに掲載された図版（モチーフ）の内容や学習課題・題材など多様な情報を手掛かりに、ページ単位の検索が可能なデータベースの構築を試みることにした。

例えば、美術教科書コレクションアーカイブの中から「生き物」の掲載されたページを探す事を想定する時、一口に「生き物」と言っても利用者によっては、牛や馬、ウサギなどの「哺乳類」を、また別の利用者は魚、鳥なども含んだ広い意味での「生き物」を考えるなど様々な場合が考えられる。また、同じ「生き物」が描かれたページであっても、鉛筆で描かれたもの、毛筆で描かれたもの、水彩で着色されたものなど異なる手法で描画、制作されたものがあり、描かれた材料や技法を限定したい場合や、複数の材料・技法を比較したい場合も考えられる。さらに、ページ毎の情報には、書籍単位の著者だけではなく、掲載図版毎に作者が示されたものも存在し、作者による検索もニーズとして想定できる。

このように、32,000ページを超える多くの情報の中から、多様な利用者が個々に必要とするページを効率良く検索するためには、どのような検索語が必要となるのか、また、多くの検索語をどのように構成・整理するのかなど、データベースの構造を先行研究なども参考にしながら検討した。結果的に、各ページに記載された題名、作者、課題などの文字情報は勿論のこと、掲載された絵や写真については、「花」「梅」など客観的に認識できる情報は可能な限り言語化して各ページ情報として記録することとした。なお、データの入力にあたっては、事前にシソーラス（語彙の持つ意味から、大分類 - 中分類と下っていき、目的の単語に達することができるような辞書）を作成し、大分類や中分類の各項目などは選択肢の中から選択できるようにして入力効率化を図った。

約1年をかけて全てのページの情報入力を終え、「物から探す」「作品から探す」「作家から探す」「課題から探す」の4つの切り口から、ページ毎の情報が検索できるプロトタイプ検索システムを開発した。

次年度は、この美術教科書コレクションアーカイブが多くの美術教育関係者や研究者に広く活用されるための、Webでの活用も含め、公開と利用に関する研究を行う予定である。

横田 学（美術学部教授）